

# ふくおかのふくし

4月号



芋焼酎「自立」の完成を、施設利用者等が麻生渡福岡県知事に報告（3月16日 福岡県庁）

- 平成 21 年度 民生委員児童委員セミナー 県知事講話  
今年の福岡県政の運営について  
～**共助社会**づくりを目指して～
- スターカップ九州2010 チャリティプロアマゴルフ大会  
子ども達に夢と希望を
- 平成 21 年度 社会福祉法人・施設トップセミナー  
施設経営者**603名**が参加
- 障害者がつくる芋焼酎「自立」販売開始  
障害者の**自立**を応援



# 平成21年度 民生委員児童委員セミナー 県知事講話

## 「今年の福岡県政の運営について」共助社会づくりを目指して」 麻生渡 福岡県知事（全国知事会長）

福岡県民生委員児童委員協議会が2月26日に春日市のクローバープラザで開催した、「平成21年度民生委員児童委員セミナー」では、1,300名を超える民生委員児童委員の参加を得ました。

本セミナーでは、全国知事会長である麻生渡福岡県知事から、社会保障や社会福祉制度の現状と課題を踏まえ、今年の福岡県政の運営について講話をいただきました。

私どもの社会は高齢化社会になってまいりました。長寿社会になって、いろいろな課題はありますが、このような長寿社会を私どもが作るべきことできたことは、まことに慶賀すべきことです。

私どもは長寿国の先頭を走っていますが、長寿は、人類の歴史上、経験のないことです。いろいろな問題あるいは課題にぶつかるのは当然です。ですから、今、私たちは、世界一の長寿国として、どんな長寿社会をつくっていくのかをよく考えて、いい社会をつくらなければいけません。



福岡県ねんりんスポーツ・文化祭開会式  
(平成21年11月 北九州市)

### 長寿社会の取り組み

今、福岡県はいろいろな試みを実施しておりますが、その中の一つとして、ねんりんスポーツ・文化祭を行っております。これには、予選を含めると毎年20万人以上の方に参加をいただいております。

ります。この取り組みを通じて、福岡県では、皆さんに外に出てもらって、体を動かしてもらいたい。それを通じて、少しでも健康に過ごし、健康年齢を延ばしていこうではありませんかと呼びかけています。

それと同時に、人間同士で日ごろの話をし、友達になって、さらに、我々の子どもたちに、皆さんの人生の経験、考えを語り継いでいく機会にしたいとさせていただきます。

ねんりんスポーツ・文化祭は多岐にわたっておりますが、例えば、高齢になっても、身ぎれいにしてさっそうとしたファッションをまとうということとでファッションショーも行っています。

そしてもう一つ、今、福岡県が中心になって取り組んでいるのが、高齢者に優しい自動車づくりです。

高齢になったら自動車の運転はやめようということ、一時は運転免許返上ということになりました。しかし、これは東京の運動です。東京ですと公共の乗り物に乗ることによって、いろ

いろな用が足せるわけですが、私どものような地方になりますと、自動車に乗らないと、実際には日常の活動ができないということになります。確かに高齢者の自動車事故が増えています。高齢者が乗っても安全に運転できる車をつくらなければ、地方の生活は成り立たないのです。

そういうことで、全国の二十数県が協力して、専門家の皆さんの意見を聞きながら、安全運転について調べています。後ろを向いて運転するのは、体がたかくなっているせいかなかなかできない。体をねじらなくてもちゃんと運転できるようにできないか。また、左折をするときに、視野が狭くなる。これを補う方法はないか。それから、赤信号を見る機械が、自動的に車を止めてくれれば、事故は一挙に減るはず。今、どういうケースで事故が起こっているのか全国1万人を対象にアンケート調査をしております。

もう一つ、福岡県で進んでいるものが、がんに対する治療方法で、がんペプチドワクチンをつくっています。

高齢化社会になると、がんが増えます。がんの今までの治療法というのは、切る、抗生物質（化学療法）、放射線を中心とするという三つのやり方でした。今、我々が久留米大学を中心に開発しているのは、第4の方法です。人間は本来、免疫力という外敵を自分でやっつける仕組みを持っています。この抗体、免疫力をがんに集中し、がんの増殖を抑えるという仕組みを遺伝子から勉強して、実用化しています。この方法がなぜ非常にいいかというと、副作用がなく、体に負担が非常に少ないからです。自分が本来持っている抵抗力をがんに集中するという新しい療法を福岡の久

留米を基点に提供できるということによって一生懸命取り組んでいます。

もう一つ私どもが、今後やっていかなければいけないと考えているのは、70歳現役という社会をつくることです。

今、年金や雇用の定年の制度は、65歳を目標に制度設計をしております。いわゆる団塊の世代と言われる皆さんが65歳を超える時代になりました。高齢者といいますが、皆さん大変元気です。実際に介護のお世話になっていないのは、高年齢者の皆さんの比率というのは、実は15、16%です。特に今の団塊の世代の皆さんは非常に元気です。そうすると、60歳になったから高齢者ということではなくて70



麻生 渡 福岡県知事

歳ぐらいまでは働こうという意識が非常に高い。ですから、働く社会をつくったほうがいいということだと思います。我々の知力あるいは視力、聴力、運動能力を比較しますと、ものすごく改善されています。男性の寿命が80歳、女性は86歳、それだけ長生き



するようになりました。一部の人は、昔の年齢は今の7掛けの年齢と同じだと言っています。つまり、今の70歳の人は昔の50歳ぐらいの体力があるという考え方です。

これだけ高齢化しますと、やはり労働人口が減っていきます。一方で、急性に労働人口が減ると経済力が落ちてしまいます。また、いろいろな社会保障も、少しでも元気な人は現役として頑張っていただかないとあまりにも若い人の負担が重いということになります。

そういうことを考えて、今後、福岡県は、70歳現役時代、現役社会というのを目指して、特区をつくっていききたい。日本全体が一挙にそうなるのは難しいでしょうから、まず福岡でそのよ

うな社会の仕組みを実現するような試みをやっていききたいと考えています。

今、課題になっている、社会的な制度の一つが後期高齢者医療保険制度の導入です。国民健康保険が医療保険の中心になっていきますが、この保険財政が急速に悪くなりました。その一つの要因は、後期高齢者といわれる75歳以上の皆さんで、この部分だけは別の財政的な仕組みをつくっていかなければいけないということになりました。

昨年、政権が変わり、年齢区分するのはとんでもないということになり、後期高齢者医療制度は廃止することが先に出来ました。新しい制度設計をしながらは、本格的に議論が始まるのは5月からです。今は市町村が中心になってこの保険制度を運営していますが、今回の一つの焦点は、県が中心になって実施したらどうかということ。高齢化で医療費が非常に上がっていますから、この医療費を誰がどういうふう負担をしてくのかということになります。今、国は、膨大な借金をして福祉を支え、社会保障制度を支えています。保険制度をどうするかということは、膨大な赤字を続けながら国家を運営し、地方の財政を運営しているというやり方をどうするかということまで考えなければいけないということです。

一つは消費税をどうするかということです。ずっと日本は失われた10年と

言われました。ほとんど経済が成長しない。これは、我々が使える国全体の富が少なくなっている、あるいは増えないという状態です。つまり、成長しないということ、1人当りに使われる富が少なくなる。そういう状態の中で、福祉を維持しようとするの大変ですから、税制の問題を考えると同時に、私どもは経済を成長させることが不可欠です。

## 互いに助け合っ 共助社会づくり

政権が交代し、制度の変更や新しい制度がつけられようとしています。その一つが子ども手当です。来年からは、いよいよ1人当たり2万6,000円の給付が行われるということで、国全体の予算が5兆2,000億円かかります。

お金を給付するというのは、子育てをする経済的な負担を直接軽減していくという意味では非常に重要ですが、同時に、子育てがうまくいく環境をつくらなくてはなりません。

ですから今、福岡県では子育て応援の店、あるいは子育て応援宣言企業という事業を実施しています。給付と並行して、子育てをしている方を応援する社会にしなければなりません。

保育所など子育て周辺のサービスをきちんと整備しなくてはならない。同時に、子どもの地域が子育てをいろいろ

るな形で応援する、子育てがしやすい環境をつくっていく。これがなければ、あれだけ膨大な財源で給付をしても、結局少子化には何の役にも立たなかったということになるわけです。

子育て給付が行われますが、私どもはそれに呼応して、子育てがしやすい社会の雰囲気、応援の体制をつくっていくことが重要です。そして、民生委員児童委員の皆様方はその大きな役割を担う皆さんであります。ぜひ、そのようなつもりで子育ての応援をしていただきたいと思う次第です。



ふくおか緊急サポートネットワーク事業登録会の託児室で撮影（平成22年1月）

最後に、皆様方に高齢者の皆さんの地域での見守り活動について感謝を申し上げます。

高齢化が進むなか、一方で核家族化も進んでおります。昔は何世代も一緒に住んでいましたが、最近は高齢者の

二人世帯、ひとり世帯が増え、ひとり暮らしの高齢者の比率が10%弱ぐらいになっていきます。そのような皆さんが今後どうやって社会の中で孤立せずやっつけていくかが非常に大事です。

幸いなことに、福岡県の場合には、高齢者への声かけ、弁当配布などがほとんどの市町村で行われるようになりました。我々が迎える長寿社会の中身は、このような取り組みをお互いの力で、お互いに助け合って実施していくことにあるのです。

それから、ねりんんスポーツ・文化祭事業など、いろいろな活動をしていきますが、全体としては、男性の参加率が少ないです。ぜひお願いしたいのは、いろいろな集まりや活動がある場合に、特に女性の皆さんは、男性の皆さんに声をかけて連れ出していただきたいです。そのような取り組みもぜひお願いしたいです。

もう一つ、最後に皆さんに知ってもらいたいのは、芋焼酎「自立」のことです。値段は1,260円ですが、去年1,800本つくり、おかげさまで、2カ月で完売しました。

この焼酎は、2つの障害者施設の皆さんが栽培した芋を使用して酒造会社で製造してもらったものです。障害者の皆さんは、少しでも所得を得ようと、パンをつくったり、編み物をしたりといった努力をして頑張っておりますから、商品名を「自立」としました。

障害者の皆さんの月収（工賃）が1万2,000円ぐらいです。これでも少しでも上げる方法として、芋を植えて焼酎をつくるという方法を実施してみたら非常によかったです。芋をつくっている知的障害者の皆さんは農作業や植物を相手にするということには非常に適しています。それは自分のペースでできるからです。

おかげさまで皆さんの大きな支持を得て売れましたから、今年も6つの施設が参加し、少し欲を出して、8,000本つくり販売します。

3月31日から売りが始まります。飲み心地も非常にいいですから、ぜひ皆さんも「自立」を買って応援してもらいたいと思います。

実は、去年の2つの施設の皆さんは、この焼酎が売れることによつて、月の所得が1万2,000円から1,200円増えました。そうやってみんな一生懸命努力をしています。障害者の皆さんは、焼酎の他、まごころを込めているいろいろなものをつくっていますから、これらの製品に対するご支援もよろしくお願いします。

皆さんは地域の中心人物ですので、今後とも、それぞれの地域の中心として、相談に応じ、応援をしながら、それぞれの皆さんが少しでも幸福になるように活動をしていただきますようお願いを申し上げます。

# スターカップ九州2010 チャリティプロアマゴルフ大会

## 子ども達に夢と希望を

株式会社福岡センチュリーゴルフクラブが主催する「スターカップ九州2010 チャリティプロアマゴルフ大会」が、4月11日(日)に朝倉市の福岡センチュリーゴルフ倶楽部で開催されます。

同大会は、大会会長 上杉昌也氏の「子ども達に夢と希望を、障害に負けることなく懸命に生きる人々を応援したい。」という願いから昭和59年に始まったチャリティイベントで、今年で25回目を迎えます。

毎年、プロゴルファーを始めとする多くの方々が趣旨に賛同し、今年も杉原輝雄プロや歌手の松山千春さん、前田亘輝さん(TUBE)など、芸能

人の方々が参加されます。

同社では、毎年、前夜祭で総額1千万円の寄付金を県内の社会福祉関係団体に贈呈し、福祉施設の子どもの進学の応援や、日頃旅行の機会に恵まれない在宅の障害児者の沖縄旅行に活用されるなど、福岡県の社会福祉に貢献されておられます。

大会の寄付総額は、昨年までで、約4億3千万円となりました。

### 在宅の障害児者と その家族に「空の旅」を

福岡県社協では、ご寄付いただいた貴重な浄財を、「福岡県ふれあいとチャレンジの翼」事業に有効に活用しております。

1981年の国際障害者年を契機として始まり、今年で30回目を迎えるこの事業は、日頃、容易に旅行の機会を得られない在宅の障害児者とその家族に「ふれあい」と「チャレンジ」を求め、2泊3日の沖縄「空の旅」を体験して欲しいとの思いから取り組んだ事業です。

参加者の皆さんには、暑い沖縄の地



みんなで海水浴

で、他の作業所の仲間達や、地元沖縄のボランティアとのふれあいを深めるとともに、海水浴やイルカとのふれあい体験などにチャレンジしていただきます。

昨年参加された方々からは、「SOLA沖縄学園のボランティアの学生さんと楽しい思い出づくりができました。お別れの時は悲しくて、涙が出ました。」「昔からの念願である飛行機に乗って夢



SOLA 沖縄学園の学生ボランティアさんと涙のお別れ

みたいでした。」「初めてのイルカとのふれあいにドキドキ。忘れられない思い出です。」など、感謝と喜びの声が寄せられました。



イルカとのふれあい

#### 【問合せ先】

総務部 総務課

TEL 092 (584) 3377

# 平成21年度 社会福祉法人・施設トップセミナー 施設経営者603名が参加



麻生 渡 福岡県知事

ツ・文化祭や70歳現役特区など福岡県政の取り組みについて力強い講話をいただきました。

講話の中で、麻生渡福岡県知事は、「福岡県と障害者施設が共同して、障害者の皆さんがまごころを込めて育てた芋を原料とした「自立」という焼酎を開発しました。去年、製造・販売した1,800本は大変好評で2か月で完売し、この売上により、障害者の皆さん

福岡県社協では、3月15日に福岡市のソラリア西鉄ホテルで「社会福祉法人・施設トップセミナー」を開催し、社会福祉法人の理事長、理事、評議員、監事及び社会福祉施設の施設長、幹部職員など603名の参加を得ました。

本セミナーは、昨年末からの経済危機に伴う経済不況や地方主権の進行等社会情勢の変化により、社会福祉法人を取り巻く経営環境が大きく変わるなか、社会福祉法人・施設経営者に求め

られる役割と責任について再確認するとともに、今後の方向性を展望し、連帯して課題解決に取り組んでいく契機とすることを目的に開催しました。

セミナーでは、全国知事会長である麻生渡 福岡県知事に「今年の福岡県政の運営について〜共助社会づくりを目指して〜」と題して、平成23年度までに行う特養施設の整備や、現在、500名の雇用を目指す福祉・介護人材育成就業促進事業、ねんりんスポー



厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 内山徹課長補佐

んの工賃が10%増えました。今年は6施設が参加し、8,000本を製造・販売します。「自立」のラベルも障害者の皆さんに描いてもらいました。これからも福岡県では障害者の皆さんが地域で自立した生活ができるよう取り組んで参りますので皆さんのご支援をよろしく願います。」と芋焼酎「自立」についてPRし、障害者のまごころ製品の販売促進を呼びかけました。

続いて、厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課 内山徹課長補佐が、「これからの社会福祉法人経営について」と題して、社会福祉法人を取り巻く現状を踏まえて社会福祉法人・施設に何が求められているのか分かりやすくお話しいただきました。

【問合せ先】  
福祉施設部 施設課  
TEL 092(584)3377

# 障害者がつくる芋焼酎「自立」販売開始

## 障害者の自立を応援



焼酎「自立」は、障害者の皆さんがまごころを込めて育てた芋を原料につくりました。(平成21年9月 若宮園)

一昨年、県と障害者施設「玄海はまゆう学園」及び「誠心園」が共同で障害者の皆さんがまごころを込めて育てた芋を原料とした焼酎を開発しました。

この焼酎は、「障害者の皆さんが自立するためにつくっている」「この焼酎を飲んで障害者の自立を応援しよう」という意味を込めて「自立」と命名されました。

昨年製造・販売された、1,800

本の「自立」は2か月で完売しました。今年度は新たに「第二ひびき学園」「こがね園」「若宮園」「サングリーン」の4か所を加えた、県内6か所の障害者施設が芋の栽培に参加し、8,000本の「自立」を製造・販売します。

### 芋焼酎「自立」の完成を施設利用者等が知事に報告

3月16日に福岡県庁で行われた「自立」の完成報告会では、施設を代表して、若宮園の渡雅代施設長が「県知事をはじめ行政の方々のご指導により、6施設が共同して焼酎をつくることができました。知事にPRしていただいたお



芋焼酎「自立」を試飲する麻生渡福岡県知事

かげで、買い求めの問い合わせも来ています。」と感謝の言葉を述べられました。

今年の「自立」を、第二ひびき学園の利用者から、麻生渡福岡県知事へ贈呈すると、県知事は試飲されて、「今年度の自立はくせがなく、飲み口がやわらかい。今年は8,000本製造したとのことで、県としてもPRして、障害者の皆さんの収入アップに貢献したい。」と語られました。

### 障害者がつくるまごころ製品キャンペーンを開催



「自立」はキャンペーン当日で約160本売れました

福岡県では、3月31日の「自立」の販売開始に先立ち、3月23日(火)にイオンモール筑紫野において「障害者がつくるまごころ製品キャンペーン」を開催しました。当日は、14の障害者

施設が参加して「自立」の先行販売に加え、米粉で作ったお菓子や県産小麦粉を使ったパン、さをり織をデザインに取り入れた縫製品など「まごころ製品」を紹介しながら販売を行いました。

## 芋焼酎「自立」を飲んで、障害者の自立を応援しよう！

価格 1,260円(税込)  
お買い求め方法 3月31日(水)から下記施設により販売を開始。



施設名	住所	TEL
玄海はまゆう学園	宗像市江口 68	0940 - 62 - 3112
誠心園	嘉麻市平 54	0948 - 20 - 5090
第二ひびき学園	北九州市若松区大字小竹 1862	093 - 771 - 5149
こがね園	朝倉市桑原 1088 - 1	0946 - 24 - 1294
若宮園	宮若市乙野字六反田 1465	0949 - 54 - 1115
サングリーン	八女郡広川町大字藤田 1416 - 17	0942 - 27 - 2555

# 平成22年度 福岡県社協事業計画

## 本年度の方針

厳しい経済情勢が続く中、大企業の規模縮小による人員整理や中小・零細企業の倒産等が相次ぎ、失業された方々の生活の安定と雇用の確保は深刻な社会問題となっている。一方で、福祉介護分野の慢性的な人材不足の解消は急務の課題である。

こうした中、本会では、福岡県の緊急雇用対策である「福祉・介護人材育成就業促進事業」をはじめ様々な事業委託を受け、社会福祉施設関係者と連携し、積極的な事業実施に努め、一定の成果を上げることができた。

少子高齢化の進展に伴い、社会福祉サービスの重要性はますます高まっており、サービスを支える人材確保のために、本年度も引き続き緊急雇用対策を重点事業に位置付け、福祉・介護分野への就業促進及び資格取得の促進を図る。

さらに、昨年10月大幅に制度改正され、離職者・生活困窮者の生活を支える新たなセーフティネットとして一層の活用が期待されている生活福祉資金貸付制度については、本年度も市区町村社会福祉協議会をはじめとする関係機関・団体と連携を図り、失業者や低所得者等支援を必要とする方々への適正な貸付に努める。

また、共助社会の実現に向けて、小地域福祉活動の基盤となる住民相互が地域で支えあう環境づくりに積極的に取り組む。

本会では、これまでの経験と実績を踏まえ、県民生活の安定確保のため、市区町村社会福祉協議会や社会福祉施設等関係機関・団体と協働し、職員の資質向上を図りながら柔軟かつ先駆的な取り組みを進め、県政と一体となった事業推進に努める。

## 重点的に取り組む事項

### 1 緊急雇用対策関連事業への取り組み

#### (1) 福祉・介護分野への就業促進及び資格取得の促進

無資格の離職者に働きながらホームヘルパー2級資格取得の機会を提供し、常用雇用をめざす「福祉・介護人材育成就業促進事業」や福祉専門職を志す学生に資格取得のための修学資金を貸与する「介護福祉士等修学資金貸付事業」、キャリア支援専門員が介護職の説明等を行い福祉・介護職への就労に結びつける「福祉・介護人材マッチング支援事業」等確実な実施に努める。

#### (2) 緊急離職者生活支援相談の強化

離職者の生活支援相談を強化し、生活福祉資金の貸付を通じ、離職者の生活確保に努める。

### 2 共助社会を実現するための地域福祉の推進

#### (1) 地域福祉活動の充実

市町村社会福祉協議会が取り組む地域福祉活動等を支援することを目的

的に階層別研修会の充実を図る。また、本会と市町村社協、関係機関、地域住民の協働による小地域福祉活動を推進するとともに、その基盤づくりに取り組む。

#### (2) 子育て支援事業の推進

安心して子育てできる地域づくりを目的に市町村社会福祉協議会の地域に密着したこれまでの活動を活かし、地域住民が主体的に取り組む子育てサロン活動や支援事業の推進に努める。

また、病児・病後児預かり等事業の普及・啓発等に努める。



子育てサロン活動の推進

#### (3) ボランティア活動の振興

市町村社会福祉協議会をはじめとする関係機関・団体に対し、情報提供や活動支援を行い、ボランティア活動の振興を図るとともに、災害ボランティアアコードイネーターの養成等に努める。

### 3 高齢者の元気づくり・仲間づくりなどを促進する取り組み

#### (1) 地域で取り組む高齢者の生きがい・元気づくり事業

地域で取り組まれている高齢者ふれあい・いきいきサロン活動に元気づくりや介護予防につながるメニューを取り入れ、さらにサロン活動が小地域福祉活動へと進展することを目的に、広報・研修・人材養成等の各種事業を行い、高齢者の元気づくりや地域のネットワークづくりに効果のあるサロン活動の全県域への普及を図る。



高齢者ふれあい・いきいきサロン活動の推進

## (2) 第10回福岡県ねんりん

### スポーツ・文化祭の開催

第10回の節目の大会として、これまでの成果を十分に踏まえ、老人クラブ、市町村、市町村社会福祉協議会をはじめ、関係機関・団体と協働して、福岡地域を主会場として開催する。

## (3) 全国健康福祉祭いしかわ大会(ねんりんピック石川2010)への選手派遣

「第23回全国健康福祉祭いしかわ大会(ねんりんピック石川2010)」に多数の選手を派遣する。



おじいちゃん・おばあちゃんの絵コンクール  
(第9回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭)

## 4 福祉人材の確保とサービスの

### 質の向上のための取り組み

#### (1) 福祉人材確保のための

##### 事業の充実

質の高い福祉人材を確保することを目的として、無料職業紹介事業、福利厚生事業、広報啓発活動に積極的に取り組む。

## (2) 社会福祉従事者に対する

### 研修の充実

福祉サービスの質の向上に資するため、県委託研修事業をはじめとする福祉従事者を対象とした各種人材養成研修の充実に努める。

## 5 福祉サービス利用者の利益の

### 保護に関する取り組み

#### (1) 日常生活自立支援事業の充実

福祉サービス利用者の利益の保護を目的とする本事業の役割がますます重要となっており、さらに積極的な事業実施に努める。

#### (2) 福祉サービス苦情解決事業の

##### 充実

福祉サービスに関する苦情解決を図ることを目的として本会に設置されている運営適正化委員会の適正な運営に努める。

#### (3) 介護サービス情報公表事業の

##### 実施

介護サービス利用者が適切な介護サービス事業者を選択できるよう、情報公表計画に基づき、情報の正確な公表を行い、円滑な業務の推進に努める。

#### (4) 福祉サービス第三者評価事業の

##### 推進

福祉サービスの選択に有効な情報を利用者に提供するとともに、サービスの質の向上に向けた事業者の取

り組みを促すことを目的とした本事業の推進に努める。

#### (5) 地域密着型サービスの

##### 外部評価事業の実施

認知症対応型共同生活介護及び小規模多機能型居宅介護の地域密着型サービス外部評価実施機関として、事業者のサービスの質の向上を目的とする評価事業の円滑な実施に努める。

## 6 生活福祉資金貸付制度の

### 適正な運営

#### (1) 資金貸付の適正化

貸付申請内容の調査を徹底し、厳しい雇用経済情勢に対応するため、セーフティネットの施策として改正された生活福祉資金貸付制度の適正な運営に努める。

#### (2) 債権管理の強化

滞納世帯に対する電話督促、市区町村社会福祉協議会への呼び出し及び自宅訪問等による償還指導を実施するとともに、悪質な滞納者に対しては法的手続(支払督促)を行い、債権管理を強化する。

#### (3) 臨時特例つなぎ資金の

##### 迅速な貸付

住居喪失者に対し、各関係機関と連携しながら迅速な資金貸付を行う。

## 7 社会福祉協議会・社会福祉施設等

### 関係団体の支援に関する取り組み

#### (1) 適正な法人会計事務の支援

市区町村社会福祉協議会が会計の原則に沿った適正な会計事務を行えるよう、研修会等の実施を通して支援に努める。

#### (2) 社会福祉法人・施設等の支援

介護保険制度や障害者自立支援法、災害対策など、法人・施設等の経営に関する情報収集・提供に努めるとともに、各社会福祉施設種別協議会活動を支援する。

#### (3) 民生委員児童委員活動の支援

県民生委員児童委員協議会との連携を強化し、地域福祉活動推進の担い手としての民生委員児童委員活動を支援する。

## 8 広報活動の充実

#### (1) 広報活動の充実

本会情報誌「ふくおかのふくし」をはじめ、地域福祉推進のための「社協通信」、子育て支援情報誌「ふくすく」、高齢者の生きがい・元気づくり推進のための「いきいきサロンかわら版」、障害者福祉推進のための「障害者福祉情報」、本会ホームページ「ふくふくネット」の内容充実に努める。

# 福岡県子育て応援啓発事業 実績報告

## 子育て応援宣言登録3,000社を目指して



福岡県では、従業員が出産・子育て期を通じて、十分な子育てをしなが

ら、引き続きその能力を活かして働き続けることのできる「子育て応援社会」を目指し、企業のトップが、子育てと仕事の両立ができる職場環境づくりのための支援策を自主的に宣言する「子育て応援宣言企業」登録制度を実施しています。

この制度は、全国に先駆けて平成15年度から実施し、現在約2,648社の企業・事業所（平成22年3月31日現在）に制度登録をいただいています。

子育てと仕事の両立できる

職場環境づくり

福岡県社協では、福岡県から業務委託を受けて、昨年11月から5か月間、女性の就業率が高い福祉・介護分野の施設や事業所の子育て応援宣言の登録推進を図るため「福岡県子

育て応援啓発事業」に取り組んできました。

この事業は、福岡県の緊急雇用対策の一環として、失業者を登録推進員として雇用し、県内6地区に配置された登録推進員が施設や事業所を訪問し、事業説明を行うことで事業

の推進を図るものです。

事業開始から5か月間で、登録推進員が訪問した施設・事業所は1,862か所で、そのうち子育て応援宣言施設として登録いただいた施設・事業所は232か所に上りま

職場の子育て支援を推進するこ

とは労働環境の改善にもつながります。福岡県では、今後も、「子育て応援宣言企業」登録制度を拡大し、3,000社の登録を目指します。

福岡県社協では、「子育て応援啓発事業」を通じて、安心して子育てできる職場環境づくりに努めてまいりました。施設をはじめ、事業所の皆さんのご協力に深く感謝いたします。本事業終了後も、福岡県や施設・関係団体と連携しながら、福祉・介護分野をはじめ、地域の子育て支援の推進に努めてまいります。

### 福岡県子育て応援啓発事業 実績報告

- 子育て応援啓発事業登録件数  
232施設・事業所（平成22年3月31日現在）

※登録された施設の中から、比較的取り組みやすい宣言の内容を例示します。

まだ、子育て応援宣言事業に登録されていない施設・事業所の方々は今後の参考とし、事業の推進にご協力願います。

#### 宣言内容（例示）

- ・育児休業制度について職員会議などで周知し取得を推進します。
- ・小学生を養育する職員に、小学校行事に優先的な休日を編成します。
- ・勤務時間の短縮等の措置について、子が小学校就学の始期に達するまで取得できるようにします。
- ・毎週水曜日をノー残業デーと定めるとともに定時退社運動を推進し家族、子どもとふれあえるようにします。

#### 【問合せ先】

総務部 総務課  
TEL 092(584)3377

# お知らせ 掲 示 板

\* 4月から5月の行事予定について紹介します。

## お知らせします

### 障害者福祉情報ハンドブック

2010が完成

福岡県社協では、福岡県から委託を受け、障害者の地域の暮らしを支える様々な情報を収集し、障害者関係の制度・施策をまとめた「障害者福祉情報ハンドブック」を2年に1度発行しています。

10度目の改定となる2010年版は障害者の各種サービスについて住まいの市町村ごとに細かく掲載しています。

このハンドブックが障害者関係機関等における相談業務の一層の充実につながり、障害のある方々やその家族の有益な情報源として活用いただけることを願い発行します。

### 内 容

手帳制度、保健・医療・衛生、日常生活援助、教育・育成、療育・訓練、



就労、まちづくりボランティア、住宅、

移動・交通、社会資源名簿等

価 格 1,300円

申込・問合せ先

福岡県社協 福祉人材・情報部

人材・情報課

TEL092(584)3310

## 募集します

### 社会福祉施設役職員研修

新任職員研修

### 目 的

社会福祉施設の新任職員に対し、職務遂行に必要な基礎知識等の習得を目的として実施します。

### 対 象

社会福祉施設の新任職員（経験年数の目安…2年未満）

### 開 催 日

A日程…平成22年5月7日・18日

B日程…平成22年5月11日・19日

C日程…平成22年5月12日・20日

D日程…平成22年5月13日・21日

定 員 各日程120名

受講料 4,000円

### 内 容

「社会人としてのマナー・接遇」「組織活動とコミュニケーション」「社会福祉施設の現状と課題」「人権学習」「実践報告」新任職員へのメッセージ

」

申込・問合せ先

福岡県社協 研修部 研修課

TEL092(584)3401

## 行ってみませんか

### 福岡県総合防災訓練

### 目 的

災害対策基本法、福岡県地域防災計画、久留米市、小郡市、うきは市大刀洗町及び大木町地域防災計画に基づき、地域内に災害が発生したとの想定のもと、福岡県、関係市及び防災関係機関並びに地域住民が一体となって実効性のある総合的な防災訓練を実施し、災害時における連携の強化、防災技術の向上や、県民に対する防災思想の普及啓発を目的とします。

### 日 時

平成22年5月30日(日)

午前10時から午後1時

### 訓練会場

筑後川左岸河川敷（二千年橋上流久留米市東櫛原町）ほか

### 主 催

福岡県、久留米市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町

### 問合せ先

福岡県消防防災課

TEL092(643)3113

